

中間報告書追補その2の取りまとめについて（案）

1 中間報告書追補その2の必要性

- ・ 検討会では、これまで、中間報告書（平成10年11月）及び中間報告書追補（平成13年12月26日）を取りまとめている。
- ・ 中間報告書追補の「行動計画」では、当面2005年までの計画が立てられているところ、一部については、2002年度までを目標としているものもある。
- ・ 今年度中に、中間報告書追補以降の成果を取りまとめると共に、取りまとめの結果を踏まえ、必要に応じて「行動計画」の更新・見直しが必要と考えられる。

2 中間報告書追補その2の位置付け、取りまとめ方法、構成等、スケジュール

【位置付け】

中間報告書追補(平成13年12月)に示された行動計画を踏まえて行われた、調査・研究のこれまでの成果の取りまとめと、今後の行動計画、達成目標を示すもの。

【取りまとめ方法】

作業班を設置する。各作業班は、成果の取りまとめ、必要な調査研究等の取組の提言を作成し、検討会に報告する。

作業班の設置に当たっては、厚生労働科学研究班を活用するなどにより作業の効率化を図る。

【構成等】（主要部分）（作業班メンバーの敬称略）

(1) 試験スキーム

作業班班長：菅野純

作業班に参加する研究班（主任研究者）：

菅野純

小野宏、下東康幸

井上達、名和田新、船江良彦

(2) 採取・分析法

作業班班長：中澤裕之

作業班に参加する研究班（主任研究者）等：

牧野恒久

菅野純委員、青山博昭委員

(3) 低用量問題

作業班班長：井上達

作業班に参加する研究班（主任研究者等）：

井上達（関澤純（副主任研究者））、小野宏
菅野純

(4) 暴露疫学等調査

(4-1) 生体暴露量等

作業班班長：牧野恒久

作業班に参加する研究班（主任研究者）：

牧野恒久、国包章一、山田健人、津金昌一郎、螺良愛郎、岸玲子、
岩本晃明、那須民江

(4-2) 疫学研究

作業班班長：津金昌一郎

作業班に参加する研究班（主任研究者）：

津金昌一郎、岸玲子、八重樫伸生、岩本晃明、那須民江

(5) リスクコミュニケーション

作業班班長：内山充

作業班に参加する研究班（主任研究者）等：

吉川肇子

(1)～(4)の各作業班班長 菅野純、井上達、牧野恒久、津金昌一郎
藤原房子委員、和田正江委員

行動計画

【スケジュール】

平成16年6月14日 第15回検討会

各主任研究者より、これまでの成果と今後の予定を発表。

平成16年6月14日以降 各作業班の班長は、作業班を（適宜、対面で）招集。

平成16年11月 第16回検討会

各作業班の班長は、取りまとめの中間状況を報告。

平成17年 1月 第17回検討会

中間報告書追補その2の取りまとめ。

平成17年 3月 中間報告書追補その2の公表。